



主な内容

- 若林舞衣子さんに栄誉記念章贈呈… 23
- 小池市長の市政報告…………… 410
- ・乳幼児医療費を就学前まで無料化 416
- ・旧まるよし五番町店に「地域交流センター」を開設…………… 710
- 長年の功労・功績に感謝 秋の叙勲… 11
- 第38回市展受賞作品を紹介…………… 1214
- 加茂の風土記…………… 20

週末にいつときの晴天
健康ウォーク (11月13日)

2005 世界ジュニアゴルフ選手権大会優勝



加茂市栄誉記念章を手にする若林舞衣子さん



若林舞衣子さんに栄誉記念章贈呈

七月のゴルフ世界ジュニア選手権十五―十七歳の部で優勝した若林舞衣子さんの加茂市栄誉記念章贈呈式が十月二十五日、市役所で行われました。

若林舞衣子さんは、芝野在住で開志学園高校二年生の十七歳。小学校五年からゴルフを始め、加茂中三年の平成十五年には日本ジュニア選手権十二―十四歳の部で優勝、昨年は関東女子選手権でも優勝しています。

両親や高校、ゴルフの関係者と一緒に訪れたこの日は、市役所玄関で大勢の職員が迎える拍手のなか花束を受け取り、贈呈式に臨みました。

市の幹部職員など約五十人が出席して行われた贈呈式で、まず小池市長から若林さんに栄誉記念章の贈呈が行われました。

小池市長は、あいさつの中で「世界選手権優勝は、オリンピックの金メダルに匹敵する快挙。三万二千人の加茂市から世界一の誕生は市民挙げての大きな喜びであり、さらに世界に羽ばたき大輪の花を咲かせてください」と栄誉をたたえ、今後の活躍を期待しました。

続いて、米山稔ヨネックス名誉会長、廣川正昭開志学園高校長、小林寿博後援会長、指導している佐久間



米山稔 ヨネツクス名誉会長



廣川正昭 開志学園高校長



両親、関係者と記念撮影



お祝いを述べる小池市長



若林さんを指導の佐久間健一プロ



小林寿博 後援会長

健一プロが、それぞれ期待を込めてあいさつし、栄誉記念章の受章を祝しました。

最後に、開志学園高校の制服姿であいさつに立った若林さんは「加茂で練習を重ねてきて、世界選手権で優勝できたことは本当にうれしい。しかし、この優勝を一つの通過点として今後とも練習に励み、各大会で新潟の若林を知っていただけるような活躍をしたい」と、日焼けした笑顔でお礼の言葉を述べました。

加茂市栄誉記念章は、縦四十一センチ、横三十二センチ、厚さ一・五センチの木製の楕円板の中に、市章や桐の紋章さらに雪椿、月桂樹の紋様をデザインした直径二十二センチの金メッキ仕上げの円形銅電鍍板と黄銅のプレートをはめ込んだもので、平成十一年の温水プール竣工式で模範水泳を行い、翌年のシドニー五輪で銀・銅メダルを獲得した中村真衣さんに続いて、二人目の授与となります。

現在、プロで活躍する人気と実力を兼ね備えた「宮里藍選手が目標であこがれの存在」という若林さんの今後の大いなる飛躍を加茂市民一同、祈念してやみません。

市政報告 その一



加茂市長

小池 清彦

加茂市民の皆様につきましては、十二月一日から乳幼児医療費が、就学直前まで原則無料になります。

特に入院については、完全に無料になります。

通院につきましては、月四回までは、一回五百三十円の一部負担金を支払わなければなりません。それ以外

は、無料となります。

入院につきましては、一日千二百円の一部負担金と一日七百八十円の食事代が共に無料になります。

加茂市では、十二月一日より前に、乳幼児の皆様には新しい「受給者証」を交付いたします。

この「受給者証」を提示されれば、加茂市内と加茂市外の全ての医院・病院で原則無料（通院）または完全無料（入院）の手続きがなされます。

ただし、加茂市外の医院・病院につきましては、しばらくの間、入院の一日千二百円の一部負担金と一日七百八十円の食事代を支払わせられるか

もしれませんが、その場合は、領収書を加茂市役所の健康課へお持ちください。その全額をお返しします。間もなく、そのようなことは、なくなることになっております。

このたびの無料化を実施するため
の財源については、満三歳未満は、県
が二分の一、加茂市が二分の一の負
担、満三歳以上は、全額加茂市の負
担です。入院の完全無料化については、
全額加茂市の負担です。

加茂市の年間の負担総額は、約五
千万円（うち、このたびの増額分は約
二千三百万円）となる見込みです。

このたびの無料化につきましては、先日数人の若いお母様方が御子様方をお連れになって、「市民と市長の『よもやま話』の日」においてになり、「加茂市では、乳幼児医療費が通院で四歳未満、入院で六歳未満まで原則無料であるが、かなり多くの市町村で就学直前または五歳未満まで原則無料となっているので加茂市も年齢を上げてほしい。」との御指摘がございました。私もはじめて最近各地で市町村合併が行われた際に年齢の引き上げが行われたことを知り、合併しないため相対的に裕福な加茂市としては、最も進んだものでなければならぬと考え、市議会の御議決をいただいで、実施することとなったものであります。

なお、入院が完全に無料となるのは、新潟県では、加茂市のみであります。なお、朝日村が入院が食事代のみ有料、通院が完全に無料となっております。加茂市が通院の完全無料を行うには、さらに千六百万円のお金が必要でありますので、こちらの方は、もう少し、加茂市の財政に余裕が出る見通しがついたところで、その実施を検討したいと思っております。

今後とも市民の皆様のお幸せのために頑張ります。

また、加茂市が多くの分野で高い水準の市政を実施することができ、このたびの乳幼児医療費の無料化の分野でも県内のトップに立つことができま理由は、次のとおりと考えております。

(一) 加茂市においては、「市民と市長の『よもやま話』の日」等によって、市民の皆様が、市政の万般にわたって、直接市長に御指摘・御提言をなされる態勢にあること。

(二) 私が総務省の自治財政局長にお願いした結果、全国の下水道の事業費の起債（借金）期間三十年が四十五年に延長され、その点、財政状況が相対的によくなったこと。

(三) 私が総務省の自治財政局長にお願いし、同局長が二年がかりで財務省と折衝された結果、今まで認められなかった定年退職者の退職金の起債が認められる方向にあり、これは、団塊の世代の退職

時期を控えて、加茂市において退職金の負担を軽くすることになること。

(四) 国が市町村合併を進める目的は、ただ一つ、国から市町村へ来るお金を極端に減らすことにあり、そのことは今や、全国市長会のシンポジウムでも公然といわれていることでもあります。加茂市が市町村合併に加わらず、田上町とも消防・衛生以外は合併しない結果、相対的に裕福な財政状況にあること。

(もし、加茂市が田上町と合併していたら、地方交付税交付金の段階補正分だけでも確実に毎年五億三千万円の交付税交付金が新市に来なくなり、その分、事業ができなくなる結果、おそらく毎年十一億円ないし十三億円の交付税交付金为新市に来なくなります。そうなりますと、加茂市は、福祉、健康、教育、産業保護等各般にわたる現在の高い市政の水準を保つことはできなくなり、乳幼児医療費無料化を行うことなどは、到底できなくなります。)

市政報告 その二

加茂市長 小池 清彦

旧まるよし五番町店の「にいつフード（株）カワマツ」による開店、都市計画道路根古屋中央線の一挙開通等について（まちづくり交付金事業の今年度採択決定）

平成十七年十一月十一日付で国土交通省において「まちづくり交付金事業」の採択が決定し、十一月二十四日加茂市議会で関係の予算が議決され、加茂市の懸案が一挙に実現する運びとなりました。

一 旧まるよし五番町店を加茂市が買取り、これを改装して、地域交流センターを開設します。

(一) 一階には、にいつフード（株）カワマツが出店し、食料品のスーパーマーケットとします。出店の時期は、来年平成十八年四月末を目途といたします。

(二) 二階は、市民交流センターとし、多目的ホール、ボランティア団体の作業室、商店街事務室等を設置する予定であり、開設は、来年平成十八年四月末を目途といたします。

(三) 市民休憩施設と公衆トイレを設けます。

(四) 旧まるよし五番町店の駐車場については、(株)まるよしの立場を加茂市が引き継ぎます。

(五) 駐車場に隣接して、広さ約二百五十四坪（八百四十一㎡）の多目的広場を建設します。

この広場は、将来、市が大通りへ移ったときには、魚市場の用地としても利用できるよう、あらかじめ設備を行います。

二 都市計画道路根古屋中央線を一挙に開通します。

(一) 来年度(平成十八年度)末までに、真寿美さん前のところまで開通いたします。

(二) その後平成二十年度末までに全区間(本量寺大門まで)の開通をめざします。

(三) 道路幅は、車道八メートル、両側の歩道各二・五メートル、合計十三メートルを原則とします。

三 体操トレーニングセンターの外構を平成十八年三月末を目途に完成し、同センターと勤労者体育センターの間の都市計画道路千刈駒岡線を平

成十九年度末までに、テニスコートのところまで建設します。

四 防火水槽二箇所を、平成十八年度(多目的広場地下)と十九年度(根古屋)に一箇所ずつ建設します。

五 (一) この事業は、本年度(平成十七年度)から平成二十一年度までの五カ年の計画であり、総事業費は、七億七千六百万円であります。

(二) このうち加茂市の負担は、四億三千九百三十万円ほどになる見込みです。

(三) 本年度(平成十七年度)の事業費は、一億八千万円です。そのうち国からの交付金は、七千二百三十万円の予定で、そのほかに起債に対し地方交付税が合計八百十五万円ほど交付される見込みです。

六 この事業は、加茂市議会と相談しながら計画してきたものであります。市議会議員各位の御指導に心から感謝申し上げます。また関係の市職員諸官の御尽力に対し、深く敬意を表するものであります。

七 今日に至るまでの間における(株)まるよし吉田行雄社長さんの御理解と御協力、片桐敏栄弁護士先生の御協力、関係各銀行御当局の御理解、新潟県御当局の御高配、そして国土交通省御当局の格段の御高配と(株)カワマツ川崎貴樹社長さんの本当に有難い御高配に対し、心から感謝申し上げます。

八 このたびの事業採択により、加茂市民の皆様方がさらにお幸せになつていかれますことを御祈念申し上げます。

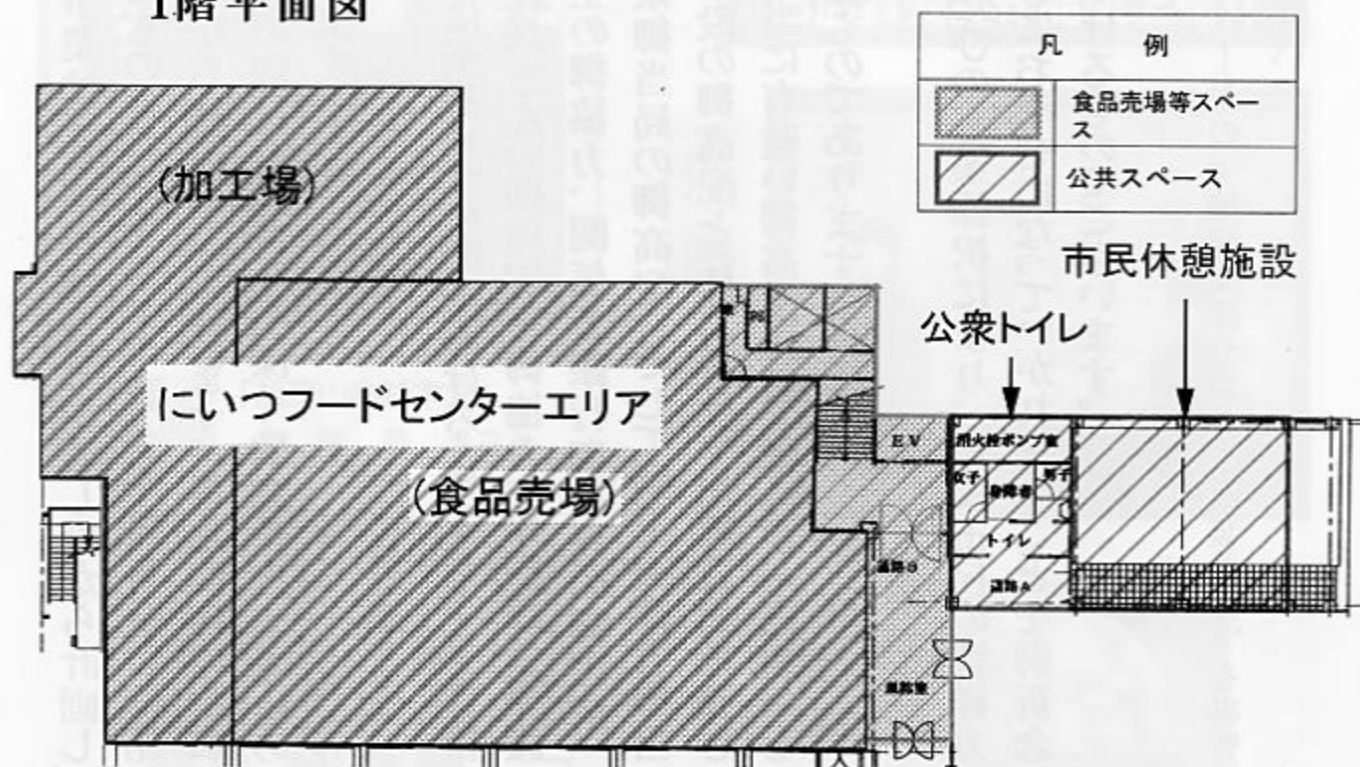
※次のページの「地域交流センター改装計画」を御覧ください。



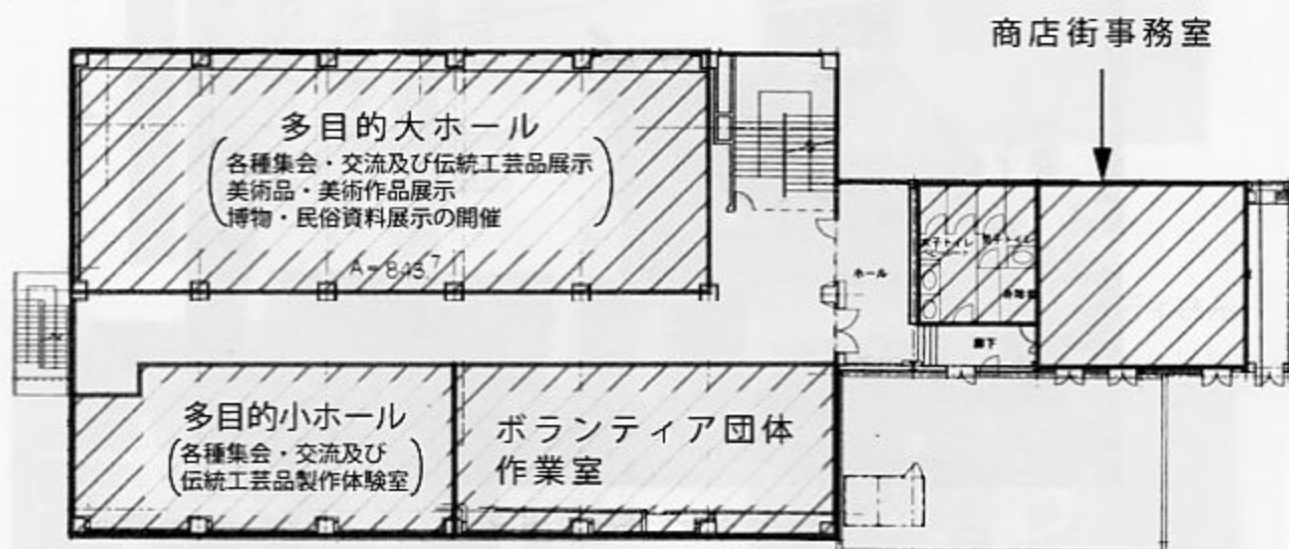
旧まるよし五番町店

地域交流センター改装計画

1階平面図



2階平面図



長年の功労・功績をたたえ

秋の叙勲で、加茂市から二人の方がともに瑞宝双光章の受章に輝きました。その喜びの声を伺いました。

瑞宝双光章

(更生保護功労)



茂野雄子さん
(黒水中区・75歳)

茂野さんは、法務大臣から委嘱された保護司として、昭和五十三年十月から二十七年余にわたり保護観察官と連携して保護観察にあたるとともに、犯罪や非行防止のための地域社会の浄化活動に貢献した功績が認められての受章です。現在は、加茂地区保護司会と更生保護婦人会の理事を務めています。「重ねての要請に何も知らなく

保護観察所から送られてくる書類の言葉自体が分からなくて非常に困った。ここまでやってこれたのは周囲の人たちの温かい指導があったればこそ」と支えてくれた多くの皆さんに感謝して受章を喜びます。

なるべく人目につかないよう昼間の来訪は避けるなど心遣いしながら、対象者の一日も早い社会復帰に尽くしました。素直に話を聞いてくれて保護期間が解除され、喜んで帰るのを見送るときが一番うれいという事です。これまで何人担当したかは「保護期間の終了とともに書類は全て保護観察所に返却するので分からない」ということですが、次の保護司の任期更新時には「年も年なので辞めさせてもらいたいのだが」と、苦笑いのなかに慈愛あふれる優しさがにじみます。かつて、四半世紀近く市の母子愛育会母子保健推進員を務め「栄

養教室で学んだことが非常に勉強になった」と言い、今は好きな料理を作ったり、近所の仲間に誘われるまま地区のいろいろな催しへの参加が楽しいひとときになっています。

瑞宝双光章

(教育功労)



土佐弘さん
(学校町・71歳)

「何も知らない加茂でしたが教員時代には得られない違った世界の人たちとお付き合いさせていただき、人生や生き方に大きな勉強になったことを今更ながら感謝しています」と、平成七年十月から二期八年務めた加茂市教育委員会の教育長時代を振り返ります。

新潟市(旧巻町)出身の土佐さんは、三条市立第三中学校校長を最後に、三条市教育委員会を含む三十八年間の教職生活でしたが、不思議なことに居を構えた加茂市内の小中学校勤務はありませんで

した。

「加茂市教育委員会では、PTA会長らに助けていただいて保護者、学校、教育委員会とうまく連携がとれたという感じがする」と話し「受験を控える中学校はともかく、小学校は子どもにとって友達と会える楽しい場所でなければならぬ。学力向上よりも心の教育、善悪のけじめができる教育が一番重要。その意味でも、子どもを外に出す校外学習が大事で、スクールバスの早期導入は通学時の安全だけでなく校外学習の面でも加茂市は先見性があり、学校教育の上で大きなヒットだった」と思いを語ります。

学校教育のほかにも、教育長のときに今年初巻の刊行をみた新しい加茂市史の編さんに着手しました。今回の受章について「無事務め上げることができたのは多くの人たちの支えによるもの。自分自身の功績は何もなく、そういう難儀をしてくれた周りの方々を代表していただけるのだと思う」と言います。

趣味は庭いじりや車での旅行などで、お孫さんと過ごす時間も大切に楽しんでいきます。

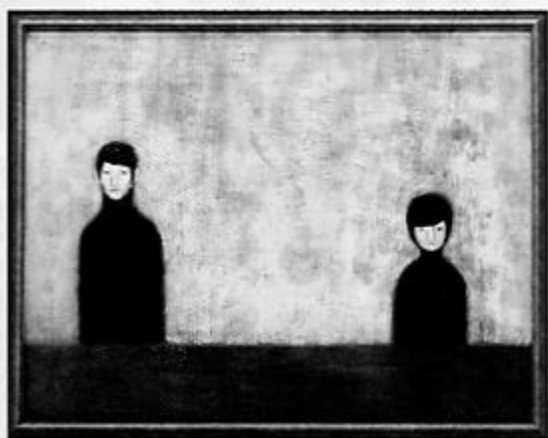
第38回 市展
市展賞受賞作品紙上紹介



日本画 「加茂山の杉木立」
小柳英一さん

洋画

「彼方」
丸山悦代さん



書道

「(唐)王灣の詩」
岡野秀山さん



彫刻

「Iさん」
本間正さん



工芸 「無題」
鶴巻ジュディさん



写真

「点検」
泉田忠穂さん



日本画

「加茂山の杉木立」

小柳英一さん（八幡一）

平成十五年に公民館初心者日本画教室を広報で知り、入会を勧められ、日本画教室に入りました。講師は湯沢カヨ先生でした。そこで日本画の基礎を教えてもらいました。二年間はあつという間に過ぎ、今年一月から受講生を中心に「加萌会」と名前を変え、公民館で月二回、サークルとして発足しました。

湯沢先生の熱烈指導を受け、サークルの仲間たちとスケッチ旅行に行ったりして自然と触れ合ったりもします。絵の色合いの難しさや、濃淡等々教え上げたらきりがなほほどです。

今回は、はからずも賞をいただき、サークルの仲間たちと驚いたり、びっくりするやらでした。

この賞を励みに、半歩でも前に進めていけるように、会の仲間たちと励まし合い、頑張っていこうと思います。

応援していただいたサークルの仲間たち、先生、周囲の皆さん、ありがとうございました。

洋画

「彼方」

丸山悦代さん（都ヶ丘）

昨年度に続き、栄誉ある市展賞をいただき、大変嬉しく思っております。

私は、以前から「絶対」など、確定を表すことばに違和感を抱いてきました。「完全」、「完成」なども同様です。なぜなら、「絶対」は必ずしも「絶対」とは言い切れないもので、「不完全」、「未完成」にこそ、可能性を感じるからです。私たちは「安定」を求める「不安定」な人間であり、「完璧」を求めるが故に切磋琢磨しているのではないのでしょうか。

この作品は、人間の脆さや気持ちの優さを感じながら描きました。構図はエスキースからほとんど変わっておらず、最初からこのふたりの心理的な距離を描くつもりでいました。私は個人的に、遠距離恋愛のふたりをイメージしていたのですが、さまざまな解釈をしていただけたら光栄です。

この受賞を励みとして、今後も意欲的に創作を続けたいと思います。

彫刻

「Iさん」

本間 正さん（学校町）

市展の彫刻の部で市展賞になったと連絡をいただき、もうびっくりでした。私は前に日本画を習っていて賞をいただいたのですが、人物の顔のスケッチが何回描いても満足できず、どうしようかと考えていたところ、四年前に公民館で彫塑をする人を募集していたので、これだと思い参加させていただいたのが始めたきっかけでした。

どんなことをするのか心配だったので、指導の高橋国一先生が笑顔で手を取り何回も判るまで指導ください、また、モデルになつてくださったIさんも良い人で、作る前に何枚もスケッチを繰り返したことで人物の顔の勉強にもなり、モデルのイメージも強まり、それに近づくように苦勞して作りました。色を付ける段階で、モデルの方の清らかさ、人柄を考え、白を選び、まとめたのが良かったと思います。

皆さんも、子供さんやら家族の方の像と一緒に作ってみませんか。楽しいですよ。

新潟日報美術振興賞の皆さん

- 日本画「黄菖蒲」 萱森玲子（柳町）
- 洋画「June 2005」 永井美奈子（栄町）
- 彫刻「夏」 有本栄子（高須町）
- 工芸「夏の日」 木村富美子（新潟市）
- 書道「春日」 佐藤芳春（寿町）
- 写真「夢中」 樋口八重子（五番町）



芸 「無題」

鶴巻ジュティさん（桜沢）

市展のテーマに悩んでいた七月、たまたま息子の中学校で壁に飾られた小島あゆみさん（今は高二）の絵を見かけました。

見た瞬間、「これだ」と思い、それをパッチワークに活かそうと考えました。型紙を準備し、夏休みにはスリランカでいろんな布を集め、九月から作り始めました。

ちょうど羽にどんな布を使うか、とだまふ迷ってしまいました。スリランカのろうけつ染の布を使ってみたら、イメージどおりにできました。後で「もうちょっと大きくしたらよかったかな」と思いました。最後に新潟のパッチワークの先生に見せたら「まわりに赤いラインをつけたら？」といわれ、なるほどと思いました。皆様のおかげで一カ月半の間、楽しみながら作れたことだけでも良かったのに、市展賞までいただき、本当にありがとうございます、あらためてお礼申し上げます。

道 「唐」王灣の詩

岡野秀山さん（高須町）

このたび、書道で市展賞をいただき大変嬉しく思っております。

書の道に興味にしているからには市展賞をいただきたいというのが長年の夢でした。このたび、その夢が叶い、良き師良き先輩に恵まれたお陰だと感謝しております。

仕事柄、工期を重んじ顧客のニーズに応えることをモットーに生きてきた人生。「書は人なり」と申しますが、なかなか腰を据えて一字一字に立ち向かうということが苦手なタイプで、いつも一気に書き上げてしまいます。この作品はそんな自分に多少セーブし、大らかな気分で書くことの楽しさを味わいながら仕上げた作品です。まだまだ思うに任せませんが、もう急いで走る年でもありませんので、これからはこの賞を糧に、いっそうの精進に励み、「書」を楽しみむ人生を送りたいものと思っております。

真 「点検」

泉田忠穂さん（小橋）

写真を始め、日の浅い私が、名誉ある市展賞をいただき、大変光栄に存じます。

作品の「点検」は、磐越西線で週末に運行されているSLばんえつ物語号の点検修繕の一コマです。華やかな脚光や視線を浴びて疾走する蒸気機関車ですが、その陰で多くの人が安全運行のために働いています。汗と油で汚れながらも、真剣な眼差しで働く姿は、厚くキラリと光るものを感じ、カメラに納めました。

写真は記録であり、情報であり、また芸術でもあり、人間の心に感動を与え、奥深いものを感じます。この賞は、公民館の写真サークル「写楽加茂」の皆さんと先生の温かい御指導でいただいたものです。この受賞を励みにますます精進し、写真ライフを楽しみたいと思います。

奨励賞・振興賞の皆さん

奨励賞 ■日本画：「恵み」原田栄作（陣ヶ峰）、「足利の大藤」山中富士夫（学校町）、「砂丘の船」番場仁（横江） ■洋画：「OX」桑原茂（幸町） ■彫刻：「2005、10月」神保悦（田上町） ■工芸：「お花畑で見る夢は!!」齊藤陽子（大郷町一）、「夕映」坂上和雄（第23区）、「はたん」清水重作（後須田第三）、「そして秋」鈴木イツ乃（田上町） ■書道：「黄道憲詩」井上春瑤（幸町）、「月の海」坂大優子（寿町）、「越前竹人形より」中澤栄子（大郷町1）、「曹植詩」小田島理恵（神明町2）、「筋切臨」堀寅雄（新栄町） ■写真：「北の海」乙川知昭（黒水中区）、「お運び」外石智慧子（前須田）、「春はいいな」岡田厚子（青海町1）、「願い」荒井一郎（第23区）、「仲良し姉妹」土田貞夫（大郷町2）
振興賞 ■洋画：「混沌」阿部恵理子（加茂高） ■書道：「臨 開通襄斜道刻石」番場はるか（三条東高）、「臨 孫秋生造像記」渡辺瑠璃（三条東高）

第2回加茂菊花展

十一月六日から二十七日までの日程で、冬鳥越スキーガーデンで加茂菊花展が開催されています。県央地区を中心に二百二十一点の作品が集まりました。

丹精込めて育てられた力作が並べられ、今年も新潟県菊花連盟副会長の松井秀雄さんに審査をお願いしました。入賞した作品は次のとおりです。(敬称略)

【総合賞】※各部門の優秀賞から選定
市長賞「国華金山」大竹与市(七幹立・新潟市)・二等賞「輝」小野福四郎(懸崖・中鶴森)・三等賞「大平の銀峰」斉藤稔(厚物三幹・三条市)
【管物三幹】優秀賞「聖光の朝」高橋輝継(新潟)・第一位「天女の名所」里



村成男(三条市)・第二位「天女の名所」田中省一(三条市)・第三位「岸の秋鈴」佐藤賢之輔(燕市)、「聖光の黄梅」小林重雄(新潟市)、「天女の名所」・「岸の秋鈴」・「岸の秋鈴」高橋輝継(※管物三幹の第三位には五点を選定)
【厚物三幹】優秀賞「大平の銀峰」斉藤稔(三条市)・第一位「大平の銀峰」大竹与市(新潟市)・第二位「国華金山」田中省一・第三位「精興右近」(※同名作品二点選定) 牛田豊作(田上町)、「精興右近」小杉喜八郎(三条市)、「大平の銀峰」高橋輝継(※厚物三幹の第三位には四点を選定)
【懸崖】優秀賞「輝」小野福四郎(中鶴森)・第一位「白妙」安中朝次(上町)・第二位「輝」本間大次郎(新潟市)
【七幹立】優秀賞「国華金山」大竹与市・第一位「聖光の朝」斉藤稔
【盆栽】優秀賞「席」相田文男(新栄町)
【中菊】優秀賞「暁雲」酒井栄策(三条市)・第一位「元禄丸」関川勝(下鶴森)・第二位「泉郷春海」佐藤喜一(後須田第四)
【だるま・福助・切花】優秀賞「国華越山」大竹与市・第一位「泉郷富水」小林重雄・第二位「天女の名所」石倉広茂(新潟市)・第三位「聖光の朝」青木丞輔(燕市)



優秀賞の「聖光の朝」(管物三幹)



三等賞の「輝」(懸崖)



市長賞の「国華金山」(七幹立)



優秀賞の「席」(盆栽)



三等賞の「大平の銀峰」(厚物三幹)



優秀賞の「国華越山」(だるま)



優秀賞の「暁雲」(中菊)

65歳以上の方々へ インフルエンザ予防接種(無料)実施

加茂市では来年三月末まで、六十五歳以上の方々のインフルエンザ予防接種を無料で行ってまいります。

インフルエンザが流行する前に、かかりつけの指定医療機関などでよく相談して、予防接種をお受けください。

実施期間

来年三月三十一日まで(インフルエンザが流行する前の十二月中旬までに受けることが望ましい)

対象者

接種する当日、六十五歳以上となっている方

(六十歳以上で心臓やじん臓、呼吸器に特に重い病気のある方も対象となります。対象になるかどうかかわからない場合は、かかりつけ医・健康課にお尋ねください)

料金 無料

(加茂市、田上町以外の指定医療機関で接種したときは、加茂市役所健康課で手続きをしていただく個人負担金をお返しします)

接種する当日に持っていくもの

◎予診票(必ず記入してください)
予診票は、指定医療機関、市役所、公民館、市民サービスセンターに用意してあります。インフルエンザ予防接種を受けるために大切なもので、よく読み、正しく記入して、指定医療機関にお持ちください。
◎保険証

問い合わせ

市役所健康課衛生係

(電話五二一〇〇八〇内線一六五)

高齢者のインフルエンザ予防接種を実施している指定医療機関

指定医療機関		電話番号	指定医療機関		電話番号
加茂市	県立加茂病院(内科外来) ※接種日が決まっていますので、病院へお尋ねください。	52-0701	加茂市	二宮 医院	52-1520
	青柳 医院	52-9511		にのみや内科クリニック	57-0770
	いからし小児科アレルギークリニック	53-2250		服部クリニック	53-4680
	うすき医院	52-1261		堀内 医院	52-0953
	大谷内科医院	52-0236		本間 医院	52-8936
	監物小児科医院	52-0800		皆川小児科医院	53-3530
	小池 医院	52-1038		吉村 医院	52-1037
	小池内科消化器科クリニック	53-3355		吉田内科医院	57-7511
	小林 医院	52-3042		鷺塚 医院	52-2054
	桜井 医院	52-1827		わたなへ医院	53-3850
	徳友 医院	53-0167		須田 医院	41-5025
	中村 医院	52-0095		田上診療所	57-5015
	ながば医院	53-0751	田中 医院	57-2024	
		田上町	星野内科医院	41-4141	

★予診票は各医療機関にも準備しています。

★かかりつけの各医療機関で予約してから受けましょう。

★当日は、予診票と保険証および健康手帳をお持ちの方はご持参ください。



歯科医院で受けるケア

歯石除去、歯面清掃を
定期的に受けましょう

毎日の歯みがきが歯周病を防ぐ基本ですが、歯垢を完全に取り除くことは困難なのも事実です。そこで、歯石除去、歯面清掃などのケアを歯科医院で受けることが勧められています。

成人を対象とした歯周病予防の調査によると、定期的に歯石除去を受けると、受けなかった場合に比べて、五年間で一本以上の歯の



喪失防止につながることがわかっています。

歯科衛生士が歯のすき間や歯の表面をすすべに磨いてくれる歯面清掃を受けられる歯科医院も増えています。

年二回を目安に、歯石除去や歯面清掃を受けましょう。

(加茂市歯科医師会)



古山一作市議 逝去

十一月六日、古山一作市議が逝去されました。八十歳でした。

故・古山氏は、昭和四十二年に加茂市議会議員に初当選以来、連続十期

にわたり市政に貢献されてきました。その間、市

議会総務文教常任委員長、副議長、議長、監査委員などを務め、加茂市発展のため活躍されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

総体結果



太極拳

期日 十月十六日

会場 下条体育センター

※太極拳は、講習会形式で、二十一名の参加者がありました。



駅伝競走

期日 十一月三日

会場 陸上競技場周辺周回コース

【五区間・10・5 kmコース】▼小学生

男子の部①下条ロッテマリーンズ44

分49秒・大会新記録②下条ドリーム

③石川少年団▼小学生女子の部①下

条オレンジ5 49分31秒②ミラクル

下条③加茂レッドガールズ

【三区間・11・4 kmコース】▼中学生

女子の部①葵中学校陸上部A 55分29

秒②葵中学校陸上部B

【五区間・19・0 kmコース】▼中学生

男子の部①葵中学校陸上部1時間20

分29秒②エアレジェンド③七谷中学

校野球部A▼高校・一般の部①ファ

イト・S1時間34分9秒②GTR



バレーボール

期日 十月十五・十六日、十一月

六日

会場 勤労者体育センター、下条

体育センター

【小学生の部】①加茂A②須田JVC

③須田JVC女子、田上ファイブズ

【中学生の部】▼男子①須田中学校②

七谷中学校▼女子①七谷中学校A②

若宮中学校2年③須田中学校2年、

若宮中学校1年

【一般男子シニアの部】①ドリーム②

西加茂B

【家庭婦人の部】①もみじ②さわやか

クラブ



バスケットボール

期日 十一月十三日

会場 加茂中学校体育館、勤労者

体育センター

【中学生男子の部】①加茂中学校3年

A②葵中学校3年③葵中学校2年、

加茂中学校3年B

【高校一般男子の部】①F・D・KA

MO②1091③R&G、DRUG

市制施行50周年記念 加茂市史資料編1 古代・中世

小京都加茂市の
本格的な市史

加茂市史

資料編1
古代・中世

全九巻の第一弾



好評発売中

A5判 345ページ 定価 2,500円

□刊行 新潟県加茂市□

若宮住宅地 分譲中

北越の小京都 加茂の奥庭!

緑豊かで便利で閑静な高級住宅地!

1坪当たり単価 95,898円～113,815円を

88,000円～93,000円に値下げしました

購入のときには加茂市の低利(年1.8%)の融資制度があります

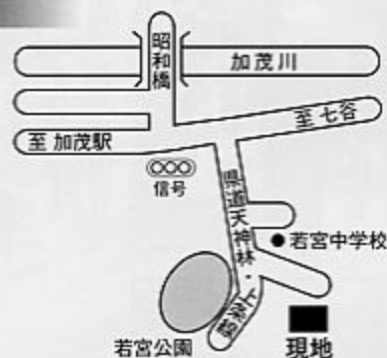
分譲区画



分譲価格

番号	面積		単価(円)		価格(円)
	m ²	坪	m ² 当たり	坪当たり	
4	337.04	101.95	26,620	88,000	8,972,004
19	290.70	87.94			7,738,434
20	294.64	89.13			7,843,316
2	333.10	100.76			9,169,243
3	330.12	99.86	27,527	91,000	9,087,213
7	357.74	108.22			9,847,508
11	351.09	106.20			9,664,454
15	284.78	86.15			7,839,139
16	284.56	86.08			7,833,083
17	285.41	86.34			7,856,481
1	369.86	111.88			28,132
5	380.70	115.16	10,709,852		
9	337.21	102.01	9,486,391		
10	353.53	106.94	9,945,505		
14	287.74	87.04	8,094,701		

周辺マップ



- ・所在地 加茂市若宮町2丁目地内
- ・用途 都市計画区域内用途地域無指定
(建ぺい率70%、容積率200%)
- ・施設 ガス・水道・下水道完備、舗装道路

加茂市保有宅地取得資金融資制度のご案内

融資条件 ①融資限度額 600万円 ②融資利率 年1.8%

③融資期間 10年以内(据置3カ月以内を含む) ④返済方法 毎月返済

⑤資金の用途 加茂市が保有する宅地の取得資金

お問い合わせ・申し込みは **加茂市建設課用地係** ☎52-0080 内線219

下条小学校 創立期の名称「又新館」

ゆうしんかん

明治五年（一八七二）十一月十日、加茂市立下条小学校の創立の日である。今年で百三十三年になる。

この小学校は下条の戸長・涌井三郎や関根静吾らが尽力して創立した学校で、同校が所蔵する、「下条尋常小学校沿革史草稿」（明治二十六年二月、後藤春蔵著）に「明治五年十一月十日、本村有志者相謀り、私立変則科を設置す、但、又新館と称す」とある。光徳寺を借りて開校し、まもなく、同六年三月二日に小橋の牛腸清吉宅を借家して移転、同十六年九月、ようやく字中村に新築移転をして現在に至っている。開校後四か月にして、牛腸宅に移ったのはその頃、同家が下条川の奥地高館山に居を移しており、小橋にあった居宅が空き家になっていたのであった。

加茂の風土記

この学校開学に尽力した人名として、先の二人のほかに、日野田文耕（天神

林）、牛腸清吉、銀田大稔の五人の名を記載している。銀田稔（号は鴨背）の名に大の文字が付いているが、当時漢学や漢詩で知られていた銀田稔本人に間違いはないだろう。

銀田稔は光徳寺の住職・圓空の第四子で、天保十二年（一八四一）生まれ。明治五年当時は三十二歳。十六歳の時に、会津若松の藩校「日新館」に学び、この頃帰郷し、専ら詩作漢籍に明け暮れていた頃で、上保内の長泉寺で書いた明治五年の「海印漫筆」（海印は稔の号）が銀田鴨背遺稿集にある。開学尽力者の中に銀田稔が名を連ねたことは、彼の漢学の素質を見込まれた参画であり、開校時



明治5年8月に書かれた銀田鴨背の「海印漫筆」（右）と数少ない日記「壬辰日記」（明治25年）

の校名も、会津日新館にちなみ、「又新館」となったことが考えられる。

また最も尽力した涌井三郎は庄屋を経てその頃、第七区三小区戸長であり、彼も十四歳で江戸に出て河田屏浦の塾で学んでいる。明治九年に第十八大区の大区長になっている。

開学時の学習内容を示す記述に、「同五年十一月創立より漢学を講じ来たりしに同六年五月県属田中直達氏小学校巡視より文部省教則に基づき漢籍を廃し、同年涌井三郎氏勤学の御趣意に基づき書籍七五巻を献ず」とある。次第に文部省の教育方針に従って、教授方法の刷新が図られていった。

校名も当初の又新館から、県下小学校区の制定を受けて、同五年十二月に、第二中学区第二十番小学、同十三年十一月に第二中学区第二十番小学公立小学下条校、同二十年二月に尋常科下条小学校と改称している。

創立時、涌井三郎は四十一歳、牛腸清吉三十五歳、日野田文耕二十六歳、それぞれ教育から地域の未来を見ていた年代であった。

なお、開学時の名称は、加茂校も素行館、鶴森校が克己館、狭口が振文舎と、ともに私塾の名称であった。

（関 正平）

おめでとう

厚生労働大臣表彰

■川口タカさん（神明町一）

川口さんは、民生・児童委員として長年にわたり地域福祉の向上に尽くされています。この功績により厚生労働大臣から表彰されました。おめでとうございます。

訂正とおわり

広報かも十月号（No.592）九ページの総体結果の中で正しくは「剣道・団体戦▼小学三・四年生の部③加茂剣士会B」です。訂正しておわびします。

人口のうごき

11月1日現在	
世帯	9,929 (+2)
人口	32,384 (-28)
男	15,680 (-16)
女	16,704 (-12)
()内は前月比	
(10月異動分)	
出生	19 (男7女12)
死亡	24 (男12女12)
転出	50
転入	27